

第 26 回研究集会 プログラム

第 26 回研究集会への参加を希望される方は、以下の Zoom ミーティング事前登録フォームよりお申し込みください。自動返信メールでミーティング参加用 URL をお送りします。

※フォームへのお申込み後、数時間経過しても返信メールがお手元に届かない場合は事務局までご相談ください。

=====

このミーティングに事前登録する:

https://list-waseda-jp.zoom.us/meeting/register/tJ0sduyoqD4iH9TWo94ovTJt_dqI00ETjrKg

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

=====

日時:

2023 年 7 月 29 日 (土)

会場:

オンライン会場 (Zoom を使用) 開場 12:45

開会の辞 13:00

研究発表(1) 13:05~14:05

13:05~13:35 佐々木俊介 (早稲田大学講師 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター)

「ウェイスト・ピッカーという生き方—インドネシア共和国バンタル・グバンの事例」

13:35~14:05 康 陽球 (国立民族学博物館外来研究員)

「ベトナム南中部ラグライ人社会の姻戚間贈与における兄弟—姉妹の親密性」

小休憩 14:05~14:15

研究発表(2) 14:15~15:15

14:15~14:45 小澤茉莉 (東京工業大学)

「現代日本の養蚕業における技術革新と生命観——蚕への供養精神に着目して」

14:45~15:15 栗原健太 (早稲田大学大学院文学研究科文化人類学コース)

「フィールドの人々による文化人類学の受容と利用」

休憩 15:15~15:30

講演 15:30~17:30

北村毅氏（大阪大学）

【沖縄シャーマニズムと家族のケア——世代をつなぐ修復的アプローチをめぐって】

近年、国内外の人類学において、家族の不変性や普遍性を自明のものとし、親族・家族研究がさまざまに試みられるようになりました。家族が傷つきやすく壊れやすいもの、すなわち「壊れもの」であるからこそ、その成員は関係を調整し、修復し、再編する不断の実践を余儀なくされてきたはずですが。本報告では、家族のヴァルネラビリティ（脆弱性・被傷性・可傷性）を軸に紡がれるナラティブを通して、家族関係の構築性とダイナミズム（流動性や可変性）を捉え直してみます。シャーマニズムとケアの思想の接点に立ちながら、「壊れもの」である家族に穿たれた戦争の傷に焦点を当てて、その修復を試みる沖縄の関係論的アプローチの意味するところを探り、家族のヴァルネラビリティを再検討します。

共催：早稲田大学文学研究科文化人類学コース

※今年度は懇親会を開催しません